

提出年月日 8. 8. 10

受理年月日 8. 8. 10

陳 情 第 6

令和9年度石岡市農業振興予算の編成に向けて、最新の消費者ニーズを的確にとらえ、特に、果物とバラの生産を振興して「石岡市のブランド化」を図ることを求める陳情

貴職には、魅力的で活力溢れる石岡市をつくるためご尽力され誠にありがとうございます。

さて、現在、笠間市は、日本一の栗産地づくり推進補助事業と名付けて、栗の生産を振興するため、栗の新植・改植事業、栗栽培機材等導入事業、栗冷蔵設備導入事業など栗生産振興のため手厚い補助事業を実施しております。そのため「笠間の栗」をブランド化して道の駅、笠間市内洋菓子店などでの栗製品売上金額が増加し成功を収めており、笠間市へかなりの経済効果をもたらしております。

当市においても、果物のシャイン・マスカット、巨峰、イチゴ（やよいひめ）、バラを「石岡市のブランド」として位置づけ、生産振興を目的とする各種補助事業を展開させ、生産意欲を高めるべきだと思います。

八郷地区は有害鳥獣による果物の被害が発生しているため果物栽培生産者への有害鳥獣電気牧柵導入事業補助金交付額を手厚くしたり、農薬散布機導入の補助事業、ぶどう、柿の新植・改植補助事業、イチゴにおいては「やよいひめという品種」の苗導入などの補助事業を実施すること。バラについては、暖房機器の栽培経費の補助金交付、雇用しているスタッフの人件費の補助金交付などを実施しすることにより、県外・市外からの観光客の増加効果、新規就農者数増加効果、当市のイメージアップ効果が図られ、ふるさと納税寄附金額の増加にもつながり財政基盤を強化できると思われます。

よって、果物とバラの生産を振興して「石岡市の有名なバラ・果物」といわれるように「ブランド化」を図ることを求める陳情をいたします。

【委員長報告要旨】

委員からは、「ブランド化するための手法として、いずれも補助事業、補助金の交付を主にしている。国・県の補助金、補助事業を活用できるケースもあるとはいえ、財政状況が厳しい中で、これだけブランド化に対して補助事業を実施することが可能なのかという点は、疑問に思うところがある。ブランド化を目指すに当たっては、補助事業、補助金というよりは、市内の多様な農産物をどのようにPRするか、そして販路拡大をどのように図っていくかが重要かと思う」との意見が出されました。

【結果】

不採択